

# 住吉町遺跡 2

— 宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査 —

2012

高崎市教育委員会  
大和ハウス工業株式会社  
有限会社毛野考古学研究所

# 例 言

1. 本書は、宅地造成工事に伴う住吉町遺跡第2次発掘調査の報告書である。
2. 本調査及び整理作業から本書作成に至る経費は、地権者並びに関業事業者である大和ハウス工業株式会社に負担して頂いた。
3. 本遺跡は、群馬県高崎市住吉町21-1、-6、-9、-10番地に所在している。
4. 本調査及び整理作業は、事業者・高崎市・有限会社毛野考古学研究所による三者協定を締結し、高崎市教育委員会の指導のもと、委託を受けた有限会社毛野考古学研究所が実施した。
5. 発掘調査は、A区を南田法正（有限会社毛野考古学研究所）、B区を浅岡陽（同上）が担当した。
6. 発掘調査・整理作業は以下の期間で実施した。

### 【第2次発掘調査】

A区 平成23年3月26日～同年3月31日

B区 平成23年6月21日

### 【整理作業】

平成23年4月6日～同年8月31日

7. 本遺跡は高崎市教育委員会の遺跡番号531である。
8. 本書の執筆については、Iを田口一郎（高崎市教育委員会）、それ以外の執筆と編集を南田が行った。
9. 本書に関わる資料は、一括して高崎市教育委員会が保管している。

10. 発掘調査・整理作業に携わった方々は以下のとおりである。（順不同・敬称略）

### 【発掘調査】

狩野友好 永井祐二 永井述史 横元裕児

竹生正明 庭山皓正

（遺構測量）竹中洋治（有限会社毛野考古学研究所）

### 【整理作業】

瀧尾則子 永井祐二

11. 発掘調査の実施から報告書の刊行に至る過程で下記の機関・諸氏より多大なるご協力を蒙った。記して感謝申し上げます。（順不同・敬称略）

大和ハウス工業株式会社 株式会社坂本工業  
魚沼本店 柳島基平

山下工業株式会社 カネコハウス有限公司

（基準点設置）有限会社スマイ測量

# 凡 例

1. 挿入図の北方位は真標北を、断面水準線数値は海拔標高を示す。座標は世界測地系（震災後）を用いた。
2. 遺構・遺物図の縮尺は以下の通りである。挿入図にはスケールを付けて表示している。  
遺構 全体図：1/200、遺構図：1/60・1/100  
遺構断面図：1/30・1/60  
遺物 土器・陶磁器類：1/4、古銭：1/2
3. 遺構覆土および土器の色調観察は「新版 標準上色帖」（農林水産技術会議事務局 財団法人日本色彩研究所監修 2006）に従っている。
4. 本書で使用する火山灰指標テフラの略称。  
As-A：浅間A軽石（1783年・天明3年）  
As-B：浅間B軽石（1108年・天仁元年）  
Hr-IP：榛名ニッ石伊香保テフラ（6世紀中葉）  
Hr-FA：榛名ニッ石渋川テフラ（6世紀初頭）  
As-C：浅間C軽石（3世紀後半～4世紀初頭）

# 目 次

## 例 言・凡 例

### 目 次

I	調査に至る経緯	1
II	地理的・歴史的環境	1
	1. 地理的環境	1
	2. 歴史的環境	2
III	調査の方法と経過	3
IV	基本層序	4
V	遺構と遺物	4
	1. As-B層下水口跡	4
	2. ピット	6
	3. 土蔵跡基礎	6
	4. 遺構および遺構外出土遺物	8
	5. 小 結	8

## 写真図版

### 抄 録・典 付

# 挿 図 目 次

第1図	調査区域図	1
第2図	周辺の地形と遺跡	2
第3図	基本層序	4
第4図	遺構全体図	5
第5図	遺構平面図	6
第6図	各遺構断面図	7
第7図	出土遺物実測図	8

# 写真図版目次

## PL. 1

A区 全景（東から） / A区 全景（西から）

## PL. 2

基本層序A（東から）  
土層堆積状況（D-D'・東側・南から）  
畦畔痕跡 検出状況（北西から）  
足跡列 検出状況（南西から）  
畦畔截割状況（G-G'・南東から）  
足跡土層断面（H-H'・北西から）  
土蔵跡杭基礎 検出状況（西から）  
土蔵跡杭基礎 検出状況（西から）

## PL. 3

杭基礎上部 礎板検出状況（西から）  
土基礎 露出状況（南から）  
杭基礎上部土層断面（C-C'・南から）  
土基礎截割状況（I-I'・南から）  
B区 全景（西から）

## PL. 4

土蔵跡燧燻・算盤地業基礎 土層断面（西から）  
算盤基礎 検出状況（西から）  
畦畔痕跡・足跡・掘削痕 検出状況（南西から）  
土蔵跡基礎の石材 / 基礎杭出土直後の状態  
出土遺物

## I 調査に至る経緯

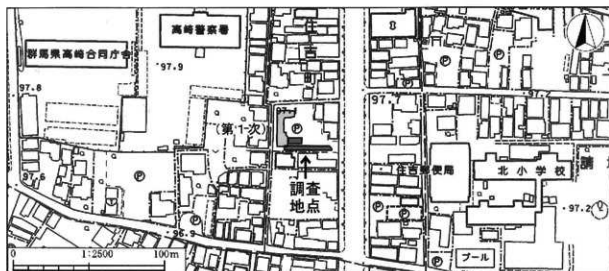
平成24年2月、大和ハウス工業株式会社群馬支店（以下事業者）より高崎市教育委員会（以下市教委）に宅地造成予定地の埋蔵文化財の状況について照会があった。照会地の一部では、平成3年に事業者の共同住宅建設計画に伴う発掘調査（第1次）により、平安時代水田跡が検出されており、当該地にも及ぶ可能性が高いことから、試掘調査による確認を実施し工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

同年2月21日付けで事業者より試掘調査申込書が提出されたのを受けて、市教委は同年3月1日に工事予定地の試掘調査を実施し、1次調査地に連続する平安時代の水田遺構を確認した。

試掘結果を受けて埋蔵文化財保護について事業者と協議を行ったが、計画変更は不可能ということなので、造成地のうちの道路建設部分に関して記録保存の発掘調査を実施することで合意した。

発掘調査は、市教委の作成する調査仕様書に基づく指導・監理の下、有限会社毛野考古学研究所に委託して実施することとなり、平成24年3月22日付けで高崎市長・事業者・毛野考古学研究所の三者協定を締結し、さらに協定に基づき平成24年3月22日付けで事業者と毛野考古学研究所の二者で発掘調査委託契約が締結された。

発掘作業は、3月26日に開始され3月30日の終了検査（A区）の後に造成工事が着手されたが、4月になり道路計画に変更が生じたためその取扱いについて事業者と協議を行い、6月21日に変更部分についての追加調査（B区）を実施した。



第1図 調査区域図

## II 地理的・歴史的環境

### 1. 地理的環境

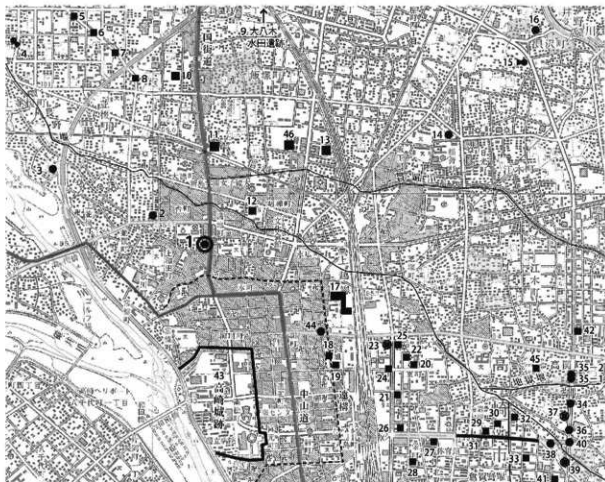
住吉町遺跡は群馬県高崎市の市街中心部に所在する。高崎市は関東平野最奥部にあたり、北西に榛名山、北東に赤城山を望む。地形的には五人別（低地帯・低台地・洪積台地・扇状地・丘陵）できる。

井野川から弘瀬川にかけての前橋台地は、約2.2万年前の浅間山噴火に伴う大規模な山体崩壊による前橋で泥流堆積物が基盤となっており、特に烏川と井野川に挟まれた市中央部を高崎台地と呼ぶ。北西-南東方向に

流下する中小河川や支谷の浸食を受け、地表面では起伏を感じにくいが、地下では樹枝状に展開する深い埋没谷と微高地が入り組む。台地北縁は榛名山東南麓の広大な相馬ヶ原扇状地末端に接し、井野川左岸では細長い舌状台地と谷が連なる特徴的な地形である。対照的に、烏川・碓井川右岸にあたる市の南西側は安中市・富岡市・榛名町等から続く第二紀系丘陵の東端部にあたり、観音山丘陵・秋間丘陵と呼ばれる。標高 200～300 m ながら、起伏の激しい複雑な地形が発達する。秋間丘陵の東縁は字榎谷戸を境にして、東西長約 6 km、南北幅 0.25～1.3 km、標高 110～180 m の三角形の洪積台地（八幡台地）となり、烏川と碓井川の合流点に接する。以上の高崎台地・観音山丘陵・八幡台地を浸食する井野川・烏川・碓井川の帯は幅の広い「低地帯」となり、自然堤防状の微高地や段丘面を形成する。住古町遺跡は烏川左岸の自然堤防後背湿地に立地し、夏場は表土 30 cm ほどで湧水する。遺跡周辺には、本来は小河川と思われる長野原を基幹とした用水網が展開する。

## 2. 歴史的環境

周辺一帯の低地では弥生時代あるいは古墳時代初頭～平安時代の水田跡が多数検出され、特に As - B 層直下水田では大畦や水路の位置・走向に基づいて条里地割が復元されている。微高地上では弥生時代～中世の集落・古墳・周溝墓・屋敷跡が点在する。近世になると、中世・和田城の地に井伊直政によって高崎城が築城され、その城下町は「遺構」と呼ばれる堀や上屋で閉鎖されていた。近代以降の高崎は絹糸精練の一大拠点として隆盛する。三国街道に面する本遺跡地は、聞き取りによれば終戦時までは米・穀類問屋の白田氏の店舗兼邸宅で、土蔵が 2 棟存在していた。戦後は「絹糸精練会社」に代わり、近年までこの土蔵は残っていた。



第2図 周辺の地形と道跡

周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	概要	文献
1	住戸町遺跡(1次) (2次=本報告)	B下水口	『市内遺跡埋文発見発掘調査報告書』高崎市教育委員会 1992 本報告
2	遺跡名跡遺跡	B下水口、竪坑石垣跡(竊来-近代丸)	『市内遺跡埋文発見発掘調査報告書』高崎市教育委員会 1991
3	上層埋没品跡遺跡	古墳後方石垣・積石堀品上層跡	『上層埋没品跡遺跡』高崎市教育委員会 1992
4	上層埋没品山古墳	坂下遺跡、5世紀後半	『上層埋没品山古墳』高崎市文化財調査報告書 46集
5-1	上層埋没品山古墳	B下水口、FA下水口、C下水口	『上層埋没品山古墳』高崎市教育委員会 1990
5-2	上層埋没品山古墳	B下水口、FA下水口、FA下水口、C下水口	『上層埋没品山古墳』高崎市教育委員会 1997
6	上層埋没品山古墳	B下水口、FA下水口、C下水口	『上層埋没品山古墳』市教委 1991、『上層埋没品山古墳』市教委 1993
7	竪坑石垣跡	C下水口、弥生時代代官	『竪坑石垣跡』高崎市教育委員会 1988
8	竪坑石垣跡	B下水口、FA下水口、C下水口	『竪坑石垣跡』市教委 1991、『上層埋没品山古墳』市教委 1993
9	大木水田遺跡	B下水口	『大木水田遺跡』高崎水田遺跡調査会 1975
10	飯沼新田古田遺跡	B下水口、F A排水廊下水田	『飯沼新田古田遺跡』高崎水田遺跡調査会 1997
11	飯沼大田遺跡	B下水口	『飯沼大田遺跡』高崎水田遺跡調査会 1996
12	飯沼町遺跡	平安時代水田、中世農土坑	『飯沼町遺跡』資料 2 飯沼古代Ⅱ 2000
13	飯沼東金井遺跡	B下水口	『市内遺跡埋文発見発掘調査報告書』1992
14	飯沼町遺跡	弥生中世石垣、弥生遺跡、古墳後方石垣	『市内遺跡埋文発見発掘調査報告書』1992
15	飯沼町遺跡	前方後円墳・石井段遺跡	『市内遺跡埋文発見発掘調査報告書』1992
16	飯沼町遺跡	土師器(5世紀初)～F埋設跡	『市内遺跡埋文発見発掘調査報告書』高崎市教育委員会 1994
17	飯沼町遺跡	近江遺跡、B下水口、古墳時代代官	『市内遺跡埋文発見発掘調査報告書』1993
18	飯沼町遺跡	高野遺跡、A下水田(飯沼水田)、B下水田、B排水廊下水田	『市内遺跡埋文発見発掘調査報告書』1996
19	飯沼町遺跡	B下水口、G排水廊下水田	『市内遺跡埋文発見発掘調査報告書』高崎市教育委員会 1996
20	飯沼町遺跡	近江土坑・溝、B下水口	『飯沼町遺跡』高崎水田遺跡調査会 1989
21	飯沼町遺跡	B下水田	『市内遺跡埋文発見発掘調査報告書』高崎市教育委員会 1992
22	飯沼町遺跡	A下水田・復旧跡、B下水田、F P 2次排水廊下水田、C下水口、弥生土坑・溝	『飯沼町遺跡』高崎市教育委員会 1994
23	飯沼町遺跡	中～近世土坑、B下水田、F P 2次排水廊下水田、弥生土坑・溝	『飯沼町遺跡』高崎市教育委員会 1995
24	飯沼町遺跡	近江工堀跡、A下水田復旧跡、B下水田	『飯沼町遺跡』高崎市教育委員会 1996
25	飯沼町遺跡	B下水田	『飯沼町遺跡』高崎市教育委員会 2000
26	飯沼町遺跡	A下水田復旧跡、B下水田	『飯沼町遺跡』高崎市教育委員会 1996
27	飯沼町遺跡	A下水田復旧跡、B下水田	『飯沼町遺跡』高崎市教育委員会 1988
28	飯沼町遺跡	A下水田復旧跡、B下水田	『飯沼町遺跡』高崎市教育委員会 2003
29	飯沼町遺跡	A下水田復旧跡、B下水田	『飯沼町遺跡』高崎市教育委員会 1994
30	飯沼町遺跡	B下水田	『飯沼町遺跡』高崎市教育委員会 1996
31	飯沼町遺跡	平安時代水田、近世堀	『飯沼町遺跡』(財)群馬県文化事業調査 2011
32	中野平塚古田遺跡	B下水田	『中野平塚古田遺跡』高崎水田遺跡調査会 1996
33	中野平塚古田遺跡	A下水田(飯沼水田)、B下水田	『中野平塚古田遺跡』高崎水田遺跡調査会 1996
34	高麗塚・村新遺跡	中世以降(堀・井戸・水堀、奈良水田、古墳石垣、弥生中世土坑)	『高麗塚・村新遺跡』高崎市教育委員会 1995
35-1	高麗塚村遺跡	縄文、弥生時代(遺跡)	『高麗塚村遺跡』高崎市教育委員会 1992
35-2	高麗塚村遺跡(2次)	B下水口	『高麗塚村遺跡』高崎市教育委員会
36	高麗塚村遺跡	中世塚・土坑・溝、古墳中～後方石垣・竪坑、古墳後方石垣	『高麗塚村遺跡』高崎市教育委員会 1992
37	高麗塚村遺跡	中世塚・井戸・水堀、B下水田	『高麗塚村遺跡』高崎市教育委員会 1995
38	上小原早田遺跡	中～近江土坑・井戸	『上小原早田遺跡』高崎市教育委員会 1992
39	上小原早田遺跡	中世塚・溝・水田	『上小原早田遺跡』高崎市教育委員会 1989
40	上小原早田遺跡	中世塚・溝・水田、古墳後方石垣・井戸・水堀	『上小原早田遺跡』高崎市教育委員会 1992
41	上小原早田遺跡	B下水田	『上小原早田遺跡』高崎市教育委員会 1994
42	高麗塚村遺跡	B下水田	『市内遺跡埋文発見発掘調査報告書』高崎市教育委員会 1992
43	高麗塚村遺跡	近代海甲船殻、新選組が築、中世塚・井戸・地下式土坑、古墳後方石垣	『高麗塚村遺跡』高崎市教育委員会 1992
44	高麗塚村遺跡	中世塚・井戸・水堀、古墳後方石垣、弥生中世土坑	『高麗塚村遺跡』高崎市教育委員会 1995
45	高麗塚村遺跡	古墳後方石垣、寺院内墓域(本筋長 32・14丸)	『高麗塚村遺跡』高崎市教育委員会 2011
46	高麗塚村遺跡	B下水田	『高麗塚村遺跡』高崎市教育委員会 2000
47	高麗塚村遺跡	B下水田	『高麗塚村遺跡』高崎市教育委員会 2007

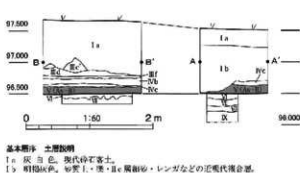
### Ⅲ 調査の方法と経過

対象面積はA区約146㎡・B区約40㎡で、隣地との余地を確保し、A区は実質89.9㎡、B区は30.0㎡となった。表土掘削は0.25㎡バックホーによりAs-B層(V層)上面まで掘り下げ、水田遺構の精査はジョレン・移植ゴテ等により人力で行い、図面・写真記録は適宜実施した。断面図は縮尺1/20で手実測し、平面図は自動追尾システムトータルステーションを用いた。遺構撮影は35mm白黒ネガ・カラーリバーサル、高画素デジタルカメラを用いた。調査はA区を平成24年3月26日～同年3月31日、B区を同年6月21日に実施した。

3月26日:調査区設定、重機表土掘削。器材・仮設トイレ搬入。遺構精査確認作業。GPS観測による基準点設置。27日:As-B層下水田跡の検出作業。竪坑基礎の確認作業。28日:調査区全景写真。土跡跡基礎全景写真。各遺構平面・断面測量。畦畔掘削作業。基本掘削トレンチ掘削。土跡跡基礎掘削。各トレンチ断面写真。29日:各遺構平面・断面測量。器材撤収。高崎市教育委員会 田口一峰氏立会いのもと、調査完了確認検査。30日:重機による埋め戻し作業。養生撤去。31日:仮設トイレ撤収。6月21日:調査区設定、重機表土掘削。遺構調査後、全景写真および平面測量。器材撤収。

## IV 基本層序

調査地点は烏川左岸の後背湿地にあたり、古代以降は細砂混じりのシルト質粘質土(D層)を基盤としている。IX層には浅間C軽石(As-C)が少量含まれているが、VI~IX層間にHr-FA(極名山ニッ岳活川テフラ-Hr-S・6世紀初頭)は層として確認できなかった。VII層は混入物がほとんど伴わない明褐色粘質土で、粘性は強い。VI層はAs-B下水出の耕作土と考えられる、黒褐色~暗灰褐色粘質土である。V層は浅間B軽石(As-B)一次堆積層で、IV層は中世以降と推定されるAs-B混入土層となる。IV A層はIV b・c層よりもAs-B純層に近く、その成因は不明である。III層は粘質土・シルト質土・砂質土で構成され、As-Aが少量含まれることから、18世紀後葉以降に長野原などから溢れ出した洪水質および泥流質土壌に起因するものと推測する。II c層からは近世の播鉢片が出土した。II c層はサラサラとした細砂層で、おそらくは洪水層であろう。II c層下部の溝状遺構からは19世紀初頭~中葉頃の馬の目皿破片が出土しており、洪水は19世紀中葉以降である。現在の一次的豪雨でも調査区西南隣接地は冠水するというから、弘化3年(1846)・明治29年(1896)の洪水および明治43年(1910)の大洪水などが想定される。II層およびIII層を破壊する溝状遺構(幕末~近代カ)の底面付近には、細長く薄い木材(樹皮カ)や炭化物が多量に腐敗されている。



第3図 基本層序

## V 遺構と遺物

### 1. As-B層下水跡跡

(第4・5図、P.L. 1・2)

重複：幕末~近代と推測される遺構に一部破壊され、A区東端部と西部を部分的に損壊で失う。埋没状態：As-B一次堆積層が全面を被覆する。地形：ほぼ水平である。区画：明瞭な畦畔は横畦・縦畦各1条のみで、区画は3面といえる。畦畔はA区東端にあるため、実際には2面しか調査できていない。各水田面の全体像は不明である。畦畔：東端部に縦畦各2条ある。下端幅28~39cm、上端幅7~18cm、高さ4~7cmを測り、比較的良好に遺存する。横畦はやや蛇行し(N-107°-E)、第1次調査区南端横畦との接続が予測される。縦畦はわずか50cm程しか調査できなかったものの、横畦とは直交方向(N-107°-E)であろう。破線表示の畦畔痕跡は、ごくわずかな高まりである。水口：東端部に1ヶ所あり、下端幅26cm、上端幅46cmを測る。水田面の状態：耕作痕・根株痕と推測されるような凹凸は非常に少なく、なだらかなである。B区で掘削工、具痕と推測される小穴列を1ヶ所検出した。足跡列：3条検出した。1・2号はおおよそ北東→南西へ、3号は南北方向に歩行している。1号は各長軸長23~27cm・歩幅67~74cm、2号は長軸長25~29cm・歩幅61.5cm、3号は長軸長22~23cm・歩幅68cmを測る。各深さは1~5cmで、いずれもAs-B一次堆積層で埋没していた。遺物：なし。時期：1108年、およびそれ以前であろう。

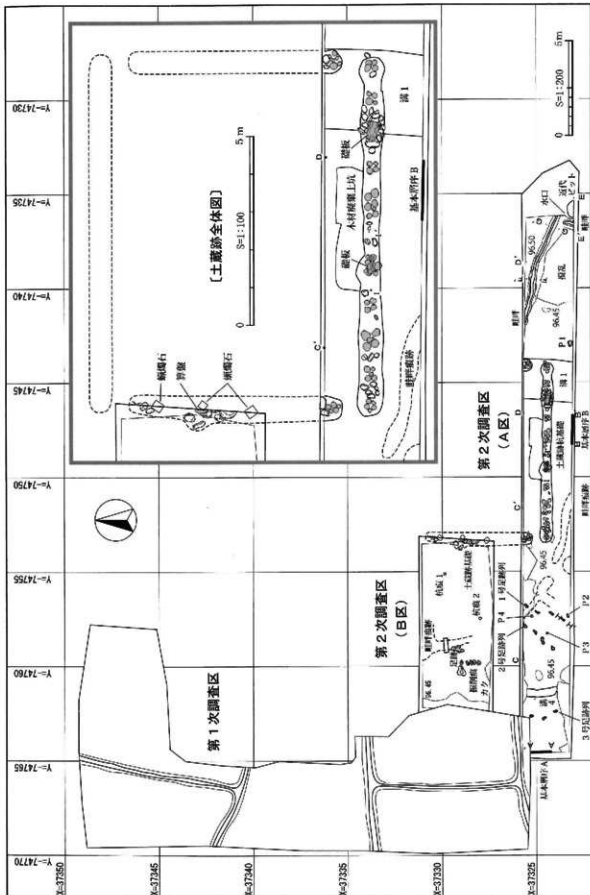
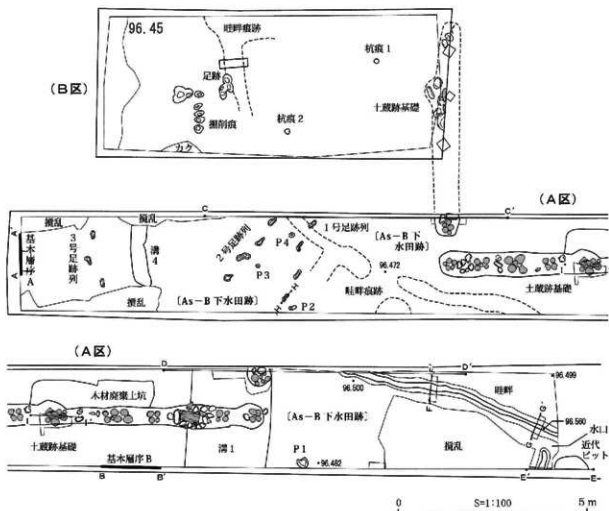


图4 本木土器土坑群跡全体図



第5図 遺構平面図

## 2. ピット (第4・5図、P.L. 1・2・3)

P1～4はAs-B主体の2次堆積層で埋没する。P1(深さ12cm)からは近世以降の平瓦片が出た。P2(深さ21cm)・P3(深さ13cm)・P4(深さ29cm)は杭状の細い形状で、時期は中世以降であろう。B区杭痕は、周囲にB混土を伴う細い腐食木材で、中世以降と推測する。

## 3. 土蔵跡基礎 (第4・5図、P.L. 1・2・3)

土蔵跡の杭基礎ならびに算盤・竈燭地業基礎(古泉2001)を確認した。A区では、土蔵の杭基礎南列部分と、東・西列末端を確認した。木材廃棄土坑と溝1を破壊して構築されている。南列基礎掘り方の長さは950cmを測る。基礎構造は、幅・深さともに60～70cmの布掘りを行い、布基礎底面から長さ1m強(抜き取った2本は100cmと110cm)・直径7～25cmの丸太杭(松カ)を4～6本一組で、垂直あるいはわずかに斜めに打ち込む。径の細い杭ほど樹皮を除去する傾向がある。As-B層(下面)を布基礎掘削深度の基準としており、抜き取った杭の先端にはAs-Bが付着する。杭先端は支持層に到達していないため、杭周摩擦力を利用した摩擦杭であろう。

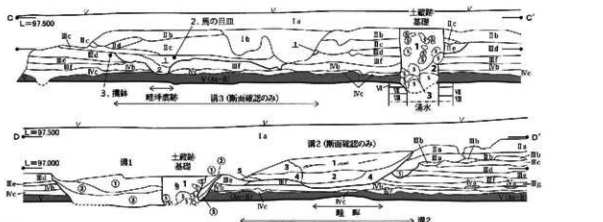
杭頭(末端打面)は水平に揃えられ、周囲をわずかに掘り込んで、拳大～幼児頭人の円礫栗石を明褐色灰色粘土とともに充填する。この粘土はVI層に相当し、廃棄土坑は採掘杭の可能性もある。杭



直上面には厚さ1~2cmの礎板を置く。南列杭群は10ヶ所(9間、両端芯々間900cm)で、間隔は西から85・85・100・100・160・100・100・85・85cmを測り、整然と配される。

布基礎内部には多数の円礫と粘土・As-A混入砂質土・粘質土が充填される。B区東壁では、一辺15~20cm×長さ60~90cmの直方体割り石が垂直に立ったままの状態で出土し、「蠟燭石」(古泉2001)と判断する。上から見ると、石材の対角線が布基礎中軸線とほぼ一致する。A区表土掘削時には多量の円礫とともに、蠟燭石が10個程度出土した。B区の状況からは、小型石材の直下には径40cm程度×厚さ14cmのタイコ挽き丸太が設置され、丸太直下の粘質土は著しく硬化していた。この丸太は、いわゆる「算盤」(古泉前掲)と判断できるが、大型石材直下には認められない。

全体構造は、円礫・粘土等で根固めした布地業、軟弱地盤での不等沈下を防ぐ杭基礎、杭天端の礎板と算盤地業、建物荷重を受けて杭・算盤に伝える蠟燭石地業などを複合的に利用した基礎地業と判断できる。明治18年の迅速測図には、調査区の位置に建物が描写されている。重複する溝と廃棄土坑は幕末~近代と推測したが、時期を確定できる遺物は伴わない。調査区西端の溝4から「明治八年二銭銅貨」が出土しており、土蔵構築時期は19世紀後半~近代初頭の期間と推測する。但し、杭が輸入材(米松・ダグラスファー)であった場合は大正末期以降と考えられる。

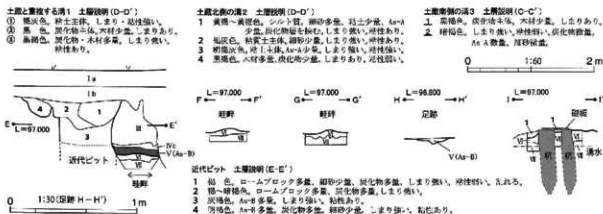


**基本層序 土層説明**  
 Ia 灰白色。現代砂み混入。  
 Ib 明灰褐色。砂質土・細・微・細砂・レンガなどの近代代用骨。As-A少量。粘質土小量。  
 Ic 褐色。砂化。細砂多量。炭化物少量。磁石(Hy-Fer)多量。  
 Id 黄褐色。砂化。細砂多量。炭化物少量。磁石(As-A)多量。  
 Ie 明褐色。灰白色。磁石・細砂中等。下部砂質土。洪水層A。  
 II 黄褐色。しりり非常に強い。粘粒あり。細砂多量。小量(40mm)少量。粘質土少量。炭化物少量。As-A・高白色物少量。  
 III 半暗~黄褐色。しりり非常に強い。粘粒あり。As-A少量。  
 IV 暗褐色。しりり非常に強い。粘粒あり。As-A少量。細砂少量。  
 V 暗褐色。しりり非常に強い。粘粒あり。As-A少量。細砂少量。  
 VI 暗褐色。しりり非常に強い。粘粒あり。As-A少量。細砂少量。  
 VII 暗褐色。しりり非常に強い。粘粒あり。As-A少量。細砂少量。  
 VIII 暗褐色。しりり非常に強い。粘粒あり。As-A少量。細砂少量。  
 IX 暗褐色。しりり非常に強い。粘粒あり。As-A少量。細砂少量。

**土蔵と重複する溝1 土層説明(D-O')**  
 ① 暗褐色。粘土主様。しりり・粘性強い。  
 ② 暗褐色。泥介物主様。木材少量。しりり強い。粘性あり。  
 ③ 暗褐色。炭化物・木材多量。しりり強い。粘性あり。

**土蔵北側の溝2 土層説明(D-O')**  
 1 黄褐色~黄褐色。シルト質。細砂多量。粘土少量。As-A少量。炭化物を伴い。しりり強い。粘性あり。  
 2 暗褐色。粘質土主様。細砂少量。しりり強い。粘性あり。  
 3 暗褐色。粘土主様。As-A少量。しりり強い。粘性あり。  
 4 黄褐色。木材多量。炭化物少量。しりり強い。粘性強い。

**土蔵南側の溝3 土層説明(C-C')**  
 ① 暗褐色。炭介物主様。木材少量。しりり強い。粘性あり。  
 ② 暗褐色。しりり強い。粘性強い。炭化物多量。As-A少量。厚砂少量。



第6図 各遺構断面図

#### 4. 遺構および遺構外出土遺物 (第6図、P.L.3)

表土～近世包含層中からは陶磁器・土器類・瓦・曲物片等が多数出土した。1は攪乱層出土の須恵器粟刷部片、2はⅢd層から出土した近世の焼締陶器掻鉢である。3は溝1から出土した瀬戸美濃・馬の目皿で、19世紀初頭～中葉の所産であろう。4は溝4出土の明治八年二銭銅貨である。

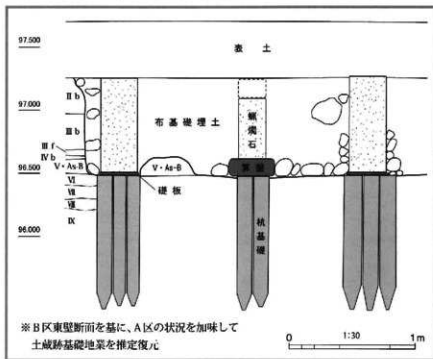


第7図 出土遺物実測図

#### 5. 小 結

As-B層下水田では、畦畔は明瞭ながらも高さがなく、田面に凹凸や小穴が非常に少ないため、坂口一(2011b)や山径世(2010)が想定した「休耕田」の可能性が高い。1・2次調査区内は小畦畔のみで、条里坪境は確認できなかった。土蔵基礎は軟弱地盤における重量建造物の典型的

基礎地業で、東京都(江戸遺跡)での調査事例が多い。類例として、前橋城三ノ丸遺跡の1・2号建物跡(18世紀後半～19世紀前半、荒井1996)の杭基礎や、東京都江戸川区昇覚寺の鐘楼基壇地下遺構(1781～1789年建立、武藤2001・古泉前掲)の蠟燭地業・穿盤地業が挙げられる。



#### 引用・参考文献

- 高崎市 2001 『新編 高崎市史』 遺史編1 原始古代 / 1999 『新編 高崎市史』 資料編1 原始古代1 / 2000 『新編 高崎市史』 資料編2 原始古代2  
 田島耕男・上原啓己・飯塚忠子・久森幸博・田口 悠 1979 『大八木水田遺跡』 高崎市文化財調査報告第12集 高崎市教育委員会  
 久保新保・田村 幸・高橋 淳・山田史仁 1990 『高崎城遺跡 III・IV・V』 高崎市文化財調査報告第107集 高崎市教育委員会  
 長井正次・志田 登・大越典康 1994 『坂内金井遺跡』 高崎市遺跡調査会・高崎市教育委員会  
 長井英樹 1996 『前橋城三ノ丸遺跡』 山武考古学研究所  
 新原洋一 1997 『高崎城跡遺跡』 高崎市文化財調査報告第57集 山武考古学研究所  
 神戶聖助・神津芳夫・金子正人 1997 『坂内新田西日遺跡』 高崎市文化財調査報告第69集 高崎市遺跡調査会  
 吉田昌利 1997 『上笠権部院跡Ⅱ遺跡』 高崎市文化財調査報告第65集 高崎市遺跡調査会  
 池田哲也・澤田祐宏・高橋俊昭 1997 『上中居西原敷遺跡』 高崎市文化財調査報告第70集 高崎市遺跡調査会  
 山崎 哲・日村明史 1997 『栄町Ⅱ遺跡』 高崎高松(1)遺跡調査報告会  
 坂口 一 2010 『中野町・丁日遺跡Ⅲ』 財団法人群馬県歴史文化財調査事業協議会報告第500集 財団法人群馬県歴史文化財調査事業団  
 坂口 一 2011a 『藤野町遺跡』 財団法人群馬県歴史文化財調査事業協議会報告第512集 財団法人群馬県歴史文化財調査事業団  
 坂口 一 2011b 『若押田遺跡』 財団法人群馬県歴史文化財調査事業協議会報告第520集 財団法人群馬県歴史文化財調査事業団  
 山径世 2010 『南保無地区遺跡群 No.5』 高崎市教育委員会 / 荒井英樹 1996 『前橋城三ノ丸遺跡』 山武考古学研究所  
 武田徳弘 2001 『江戸大名屋敷の礎物礎』 『理もれた中近世の住まい』 奈良国立文化財研究所シンポジウム 同成社  
 吉泉 弘 2001 『3建築—軟弱地盤の基礎工法』 同院 江戸考古学9研究叢書 江戸遺跡研究会編 前掲書  
 (財) 千原城址遺跡 2010 『筑紫館 基本資料との闘い』 千原城址遺跡防犯防衛課

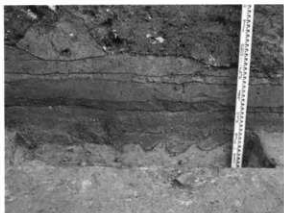


A区 全景 (頁から)

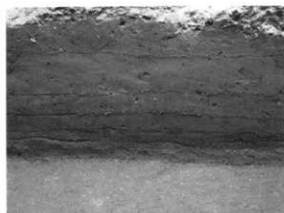


A区 全景 (面から)

PL. 2



基本層片A (東から)



上層堆積状況 (D-D' 東側・南から)



畦畔痕跡 検出状況 (北西から)



足跡列 検出状況 (南西から)



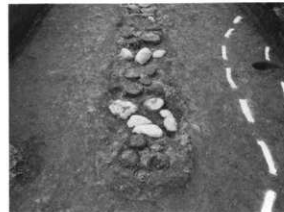
畦畔截割状況 (G-G'・南東から)



足跡上層断面 (H-H'・北西から)



土蔵跡杭基礎 検出状況 (西から)



土蔵跡杭基礎 検出状況 (西から)



杭基礎上部 礎板検出状況 (西から)



杭基礎 露出状況 (南から)



杭基礎上部十層断面 (C-C'・南から)



杭基礎縦断状況 (1-1'・南から)



B区 全景 (西から)



土蔵跡紙堀・算盤地奥基礎 土層断面（西から）



算盤基礎検出状況（西から）



畦畔痕跡・足跡・掘削痕 検出状況（南西から）



土蔵跡基礎の石材



基礎杭 出土直後の状態



出土遺物

## 抄 録

フリガナ	スミヨシチヨウウイセキ2
書名	住吉町遺跡2
副書名	一宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査一
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第299集
編著者名	南田法正
編集機関	有限会社毛野考古学研究所
発行機関	有限会社毛野考古学研究所
発行年月日	西暦2012(平成24)年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 東経		調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	(世界測地系)				
住吉町遺跡	群馬県高崎市住吉町21-3、-6、-9、-10	10202	531	36°	139°	20120326	119.9	宅地造成工事
				20′	00′	20120331		
				00″	02″	20120621		

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
住吉町遺跡	水田跡 その他	平安	A <sub>N</sub> -B層下水田跡	須恵器	平安時代後期・A <sub>S</sub> -B層直下の水田跡検出。 土蔵跡布張り杭基礎および瓶燭・舞臺基礎地業を確認。近世末期～近代頃と推測。
		中世	ピット	4基 陶器 磁器	
		近世	杭 痕	2基 土器類	
		近代	土蔵跡(基礎)	1棟 瓦 石製品 (蔵跡石材) 植物遺存体 (杭・礎板・桶)	

高崎市文化財調査報告書第299集

## 住吉町遺跡2

一宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査一

平成24年8月18日印刷

平成24年8月31日発行

編 集/有限会社毛野考古学研究所

発 行/有限会社毛野考古学研究所

前橋市公田町1002番地1

Tel. 027-265-1804

印 刷/朝日印刷工業株式会社